

黒松

第73号

令和4年1月5日発行
柏崎刈羽地区保護司会
TEL(0257)23-8615
柏崎市豊町3-59
総合福祉センター内

犯罪に戻らない・戻さない

～立ち直りをみんなで支える明るい社会へ～

犯罪や非行のない明るい社会の建設を願って

柏崎海岸の夕景(大日輪) 撮影/保護司 佐藤俊男



新春の御挨拶

新潟保護観察所保護観察官

小島 英里香

令和四年の新春を健やかに
お迎えのことと、心よりお慶
び申し上げます。

また、柏崎刈羽地区保護司会及び更生保護女性会をはじめ、地域の皆様方におかれましては、安心安全な地域づくりのため、日々御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在も、新型コロナウイルスの終息がなかなか見通せない状況が続いております。物理的にも心理的にも距離が広がり、人とのつながりが希薄になる中、一人で過ごす時間が増えて、さみしさや孤独を感じる機会が増えていくかもしれません。こうした中、更生保護においても、地域社会で孤立している人や困っている人たちを誰ひとり取り残さず、みんなの手を差し伸べていくことが、犯罪や非行を未然に防ぐためにも益々重要となつてきていると思います。

また、年々この更生保護を支えている保護司のなり手が減少し続けており、法務省においても喫緊の課題とされています。私自身も、保護観察官として業務に携わる中、更生保護がいかに地域の保護司の方々に支えられているかを感じる日々です。この度は本誌をお読みいただき感謝申し上げます。そして、今後一人でも多くの方々に、更生保護や保護司制度に対する興味関心をお持ちいただければ幸いです。

末筆になりましたが、改めて更生保護に御協力いただいている全ての方々に感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬ御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。



私の住む町

柏崎市立第三中学校二年生 近藤ひより

私はバスが通っていない市の端に住んでいる。決して暮らしやすいとは言えない。そんな場所だからか町民はほとんど顔見知り。そして、横のつながりが強いからか、情報が伝わるのが異様に速い。私はそんなところが嫌で嫌でしょうがなかった。元々、人付き合いが上手くない私は、人と話すことが嫌だった。それから少したったところ、私の行動はヒートアップしていった。

元々、人に会うのも嫌だったこと、反抗期ということもあり、会った人にあいさつをしなくなっていた。目があったら無視、話しかけられたら会釈、その頃の私は会釈をするだけでいいと思っていた。そのうち会釈さえしなくなるのだが、そんな中、私を変える出来事があった。突然父が亡くなった。当然私は、人にあいさつをしないので、父にもきつく当たっていた。別に父親なんて、と不謹慎な態度をとってしまった。別にどうでもいい、家なんて、家族なんて、そう思っていた。別に私がいなくても、とも思っていた。

それから少したった頃、近所に住むおばさんに、

「あなた、このままだと、地獄に墮ちていくな。」

と言われた。地獄なんてある訳がない。「あなたが別にそう思うのなら、私はどうでもいい。だけど、人様に迷惑をかけてはいけないからね。」

そう言って彼女は去っていった。その時、私の心の中に、何かもやもやするものができた。

それから必死に考えた。私は気付いた。彼女は私を救おうとしてくれているのだと。そう考えると、私の心のもやもやが消えていった。

それから少したった頃、彼女に聞いてみたことがある。なぜ私を救ってくれたのか。すると彼女は、

「この町は横のつながりが多いし、情報が伝わるのが速いから、あなたがあいさつしないってみんな心配してたんだよ。あなたのことは孫だと思っているからね。」

と言った。そう聞いた時、私は、町民に見守られ、非行に走らないようにして

くれていたのだと思った。

このことを通して、私の住んでいる町はみんなが人のことを想い合い、犯罪や非行に走らないように見守ってくれている。あいさつ一つで分かってくれている地域の人には感謝している。

世界的に感染症が流行し、犯罪や非行が見えないところで起こりやすくなった。だからこそ、一つ一つの行動にいつもとちがうところがないかを探すことが大切なことだと考える。

社会を明るくする運動

作文コンテスト

柏崎・刈羽地区表彰者

- 新潟県作文コンテスト 特別賞
- 柏崎市作文コンテスト 最優秀賞（柏崎市長賞）
- 第三中学校二年 近藤ひより
- 柏崎市作文コンテスト
- 優秀賞（柏崎刈羽地区保護司会長賞）
- 第五中学校三年 政金 優来
- 柏崎市作文コンテスト
- 優秀賞（柏崎刈羽地区更生保護女性会長賞）
- 第一中学校二年 加藤 環

おめでとう
ございます



保護司の一言

歌で心身のリフレッシュ

保護司 名塚 美幸

歌は3分間のドラマで歌うよりも「演じる事」であると聞いたことがあります。なるほどなと思いました。歌詞を見たり、歌を聞いた時にその情景を想像し感動したことはないでしょうか。歌詞に共感したり、慰め、励ましなど勇気づけられ、心身ともスッキリした気分になれる場面も時にはあります。

私も学生の頃から歌謡曲は好きで、レコード盤やCDなど買い求めました。青春時代に繰り返し聞いた曲は生涯心に残るといわれています。懐かしさを感じる曲は喜び、幸せ、満足、リラックスなどポジティブな感情を呼び起こしやすいと言われています。まさにストレスの解消に繋がるそうです。

歩こう」、第2位はS.M.A.Pの「世界に一つだけの花」、第3位は美空ひばりの「川の流れのように」とのこと。このような昭和歌謡曲を聴くことと、日本画家であった父の遺作絵を見ることとが、今の私の楽しみです。

最近では昔に比べてテレビの歌謡番組が少なく大変残念ですが、BSで放送中の「人生歌がある」「BS日本の歌」「昭和歌謡ベストテンDX」は欠かさず見えています。それに今はYouTubeという便利なツールがあるので、つい見入ってしまいます。

昭和歌謡とは人情味と古臭さを感じ、つい自分は昭和の人間なんだなと思うこの頃です。コロナ禍において全国的に様々な活動が制約されている中、歌を聞いてリフレッシュしています。

「愛の協力会員募集の御礼」とお願い

明けましておめでとございます。平素より、各地域の皆様には「愛の協力運動」にご理解ご協力と、多大なるご支援をいただいておりますことに、厚く感謝と御礼を申し上げます。「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。柏崎刈羽地区においても、皆様のご理解とご協力を得ながら、犯罪の無い安全安心な地域社

会を目指して本運動に取り組んでいます。「罪を憎み人を憎まず」犯罪や非行を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせて活動を続けて行かなければなりません。明るい社会に向かって、一層のご理解とご協力ご支援をお願い申し上げます。



令和3年度 各種表彰者

- 瑞宝双光章 内山 知英
- 全国保護司連盟理事長表彰 永寶 和彦
- 関東地方更生保護委員会委員長表彰
..... 大塚 登、栗林 文英
宮澤 順亮
- 関東地方保護司連盟会長表彰
..... 石塚 道宏、森 高志
- 新潟保護観察所長表彰 神林 均、田村 真
佐々木恵一郎
- 新潟県保護司会連合会長表彰 桑原 博
- 全国保護司連盟理事長家族功労 尾崎みちよ

保護司の異動

- ごくろうさまでした / よろしくお願ひします /
- 退任 熊丸 政二 (荒浜)
- 新任 名塚 美幸 (刈羽村)



一人ひとりが主役の村づくり

前矢田町内会長 **黒 金 道 雄**



高齢化、買い物難民、限界集落等、地方の衰退する現状を表す言葉が飛び交い始めて久しい。私の住む中通地区も例外でなく、平素の会話にも半ば諦めに似た言葉が多く聞かれた。

それでも矢田集落では十数年前から営農組合を立ち上げ、米だけに頼らずにマコモタケや枝豆などの園芸作物を栽培したり、農地を農地中間管理機構に集積して担い手に貸し出し、農業経営の大規模化を進めたりと、

農業振興による集落の活性化に努めてきた。

更に改正土地改良法が施行されるや、大規模機械化農業に適し且つ園芸作物と米作の切り替えが容易でできる圃場（水田）整備を目指して圃場整備推進委員会を立ち上げ、将来の夢を語り合った。

こうした折、柏崎リーダー塾の皆さんや市役所から、地域活性化のために都会から若者を呼び込む事業（地域



2021年 熊野神社の秋祭り (柏崎日報社提供)



2019年 インターンシップ 報告会



2021年 町内忘年会

おこし協力隊（事業）の話を聞いた。真に、集落の更なる発展へのチャンス到来であった。また、男性中心の集落運営から脱皮するチャンスでもあった。

早速、圃場整備推進委員会を母体に、若者や女性、先輩層からも加わって頂き、目指す集落像やどんな人材をどのように招き何をしてもらうのか等について、週二ペースで勉強会や協議を重ねた。

平成三十一年から市ホームページで募集開始。同年夏には大学生の体験移住「インターンシップ」にも取り組んだ。「よそ者」を受け入れる経験に乏しい私達には貴重な経験となった。受け入れに係わる協力体制の構築、若者の参加の促進、女性の活躍の場の確保等、列挙しきれない程の財産を得た。インターン生と今も続く温かい交流関係は何物にも替え難い。

同年十二月に二人目の協力隊員（男性）を愛知県から迎え、翌年九月には二人目（女性）を東京都から迎えることができた。いずれも集落内の空き住宅に住んで頂き、男性隊員には農業振興による村おこし、女性隊員には空き店舗を活用したサークル活動や学習会、お楽しみ会等の交流推進の面から村おこしに力を貸してもらっている。

また、協力隊員二名という恵まれた環境を作って頂いたお蔭で、二人の連携による取り組みが生まれ大きな成果を挙げている。例えば、祭りの神楽、夏の納涼会、クリスマスツリー作りなど、若

い衆から年輩者までのみんなで創り上げる行事を企画・運営し、コロナ禍中とは思えない程、一人ひとりが充実感を持つ活動に育ててもらっている。更には、折り紙サークル活動や地域サポート農業、ゴッコ貯筋体操などへの参加により住民との繋がりを確かなものにすると同時に、住民同士の交流にも広がりや深まりの変化が生まれてきている。

更には二人の特技を生かしたパソコンやスマホの住民向けお助け教室を開いたり、新型コロナワクチン接種申込の手助けをしたりと、住民個々の困りごとにもまで応えてもらっている。

先日、集落役員と住民の合同忘年会があった。会場に足を踏み入れた瞬間、うれしさが込み上げてきた。出席者約五十名の四割が子供を含む青年層の人たちだったからだ。更に女性の方々が受付やら司会やら宴の段取りやら、それぞれが自分の持ち場ではつらつと活動している姿が目に入ってきた。心に描いていた集落像に二歩近づいた感じがした。

地域おこし協力隊員の活躍と関係機関のご支援に心から感謝するとともに、集落づくりは一人ひとりが主役であることを経験を通して学んだ私たちは、この歩みを止めることなく次の一步を踏み出したい。